

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県 群馬県

・学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	川場村立立川場小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	16
児童数	39	33	37	36	39	36	1	218	

・研究の概要

基礎的・基本的な内容を確実に身につけた児童の育成 —— 少人数指導・教科担任制・放課後補充指導を通して ——

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

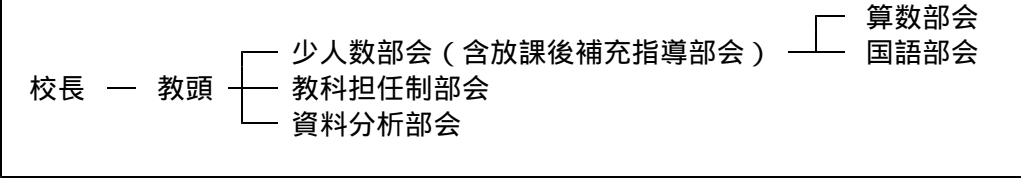
2年生から6年生までの算数の少人数指導(理解度に差が出やすいため) 3年生から6年生までの国語の少人数指導(理解度に差が出やすいため) 3・4・5・6年生での社会科の教科担任制(教師の専門性を生かした指導をするため) 2年生から6年生までの放課後補充指導教室(自ら学ぶ繰り返し学習で、計算力を確実に定着するため)

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	テーマ 基礎的・基本的な内容を確実に身につけた児童の育成 少人数指導・教科担任制・放課後補充指導を通して 研究の見通し 算数の少人数指導を実施することにより、児童に基礎的・基本的な内容を確実に身につけさせる。教科担任制の指導を通して、体系的な指導を行い、基礎的・基本的な内容を確実に身につけさせる。 研究内容・方法 算数の少人数指導(2～5年生)、教科担任制により基礎的・基本的な内容を確実に身につけた児童を育成するとともに、前年度の学習が不十分な部分を放課後補充指導教室で補充指導することにより、確実に身につけさせる。
平成15年度	テーマ 基礎的・基本的な内容を確実に身につけた児童の育成 少人数指導・教科担任制・放課後補充指導を通して 研究の見通し 平成14年度と同じ 研究内容・方法 算数の少人数指導(2年～6年生)、国語の少人数指導(3年～6年生)、社会科の教科担任制、放課後補充指導を実施する。 内容は原則的には平成14年度と同じ
平	テーマ 基礎的・基本的な内容を確実に身につけた児童の育成 少人数指導・教科担任制・放課後補充指導を通して

成 16 年 度	研究の見通し 平成14年度と同じ。 研究内容・方法 原則的には平成14・15年度と同じ。
-------------------	---

(3)研究推進体制



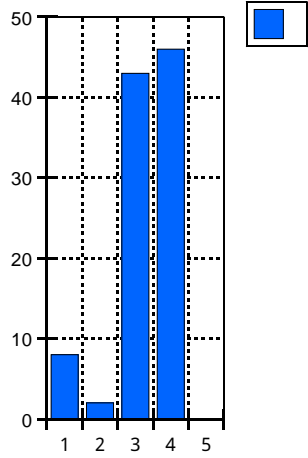
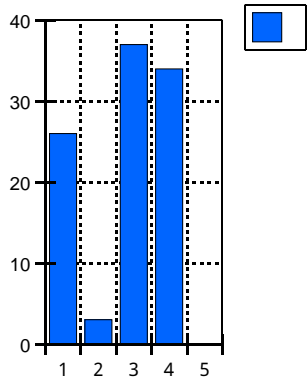
平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

○算数の少数者指導

- ・本年度は昨年度の研修の成果に基づき年度当初より積極的に習熟度別学習を導入した。昨年度補充的な学習を取り入れたのに続き、今年度は発展的な学習を積極的に取り入れた。その結果、下位群児童の意欲の向上とともに、上位群の児童の学習意欲の向上も見られた。学習への取組の態度も向上した。
- ・本年度における標準学力検査による学力の変容・比較は、2月中旬に行う検査結果を4月当初の学力検査結果と比べて行う予定である。
- ・少数者指導を昨年度から行ってきた学年の標準学力検査の結果比較は下記のとおりである。

現3年生の標準学力検査結果(算数)
(5段階分布 %)



平成14年度 偏差値46.9

平成15年度 偏差値51.9

現3年生は、学力に課題を抱える学年である。昨年10月より少数者指導の算数において習熟度別学習を取り入れ始めた。児童の意欲面の向上が教師により観察されるとともに、今年4月に行った標準学力検査結果の比較によると、偏差値が5.0向上した。1の段階の児童が全体の26%であったが8%に減った。昨年度行った少数者指導がこの学年において効果的に働いたことを示している。

- ・平成13年から継続的に少数者指導を行っている学年も、少数者指導開始以前に比べると、標準学力検査結果は向上しているとともに、意欲面の向上が見てとれ、本校においては、算数の少数者指導が効果的であったことが分かる。算数において少数者指導を行った学年の標準学力検査結果の推移は下記のとおりである。

	H13年度	H14年度	H15年度	偏差値の推移
現3年生		46.9	51.9	+5.0
現4年生		50.2	52.5	+2.3
現5年生	50.3	54.5	53.2	+2.9
現6年生	44.8	51.1	50.9	+6.1

○国語の少人数指導

- ・国語の少人数指導に積極的に取り組み始めたのは、本年度からである。本年度は、「どの単元で」「どのような形態で」少人数指導に取り組むことが国語において効果的なのか探りながら実践をすすめてきた。本校としての国語の少人数指導の在り方が明らかになってきたことが大きな成果である。
- ・国語において少人数指導を行っている学年では偏差値の向上が見られ、本校において少人数指導が効果的であったことが分かる。
- ・少人数指導を行った学年の標準学力検査結果の推移は下記のとおりである。

	H13年度	H14年度	H15年度	偏差値の推移
現5年生	49.7	52.9	52.2	+2.5
現6年生	44.9	46.5	49.8	+4.9

○教科担任制

- ・教科担任制については、本年度授業研究会を継続的に行うことを通して、教師の専門性の向上、指導力の向上を目指した取組を行った。教師の観察によると、社会科の授業に対する取組の向上及び資料活用能力の向上が観察されている。
- ・前年度に意図的に教科担任制を行った学年においても、偏差値の向上が見られている。

○放課後補充指導教室

- ・放課後補充指導教室へ積極的に来室する児童が多く見られている。今年度は1学期960人、2学期890人の児童が来室している。来室児童数は昨年度に比べ各学期とも約200人ずつ増加している。

2. 今後の課題

- ・算数の少人数指導については、本年度の成果をもとに来年度以降は「どの学年の」「どの担任でも」今年度行った習熟度別学習と同レベルの指導が行えるようにしていく必要がある。学力向上を指定年度だけで終わらせることのないように、校内態勢を整備し、指導計画を充実させていく。
- ・国語については本年度より本格的に実施となった。本年度の研修の成果を生かし効果的な少人数指導の在り方を探り、児童の学力向上につなげていく必要がある。
- ・教科担任制については、開設できる教科が当該年度の職員構成や校内事情により異なるが、開設できる教科については開設し、教師の専門性を向上する取組を継続して行い、学力向上につなげていく必要がある。
- ・個に応じたきめ細かな指導を行うために、指導と評価の一体化の充実、発展的な学習・補足的な学習の教材開発を推進する必要がある。
- ・どのような指導形態をとるにしても、児童の学力を向上させるためには、教師の指導力の向上が不可欠であることが2年間の研修の結果明確になった。来年度も教師の指導力の向上のための研修に積極的に取り組んでいく。

・ 学力把握のための学校としての取組

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ 学期 1 回の児童向けアンケートの実施・分析・ 年 1 回の保護者向けアンケートの実施・分析・ 年 2 回の標準学力検査の実施・分析・比較 |
|---|

・ フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 平成 1 4 年度は年 1 回の授業公開。
- ・ 川場小学校の web ページに「学力向上フロンティア事業の部屋」開設。
- ・ 平成 1 5 年度については、年 1 回の授業公開及び研究紀要の作成。
- ・ 平成 1 6 年度については、検討中。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 1 5 年度からの新規校 ○ 1 4 年度からの継続校
- 【学校規模】 6 学級以下 ○ 7 ~ 1 2 学級
 1 3 ~ 1 8 学級 1 9 ~ 2 4 学級
 2 5 学級以上
- 【指導体制】 ○ 少人数指導 ○ T . T による指導
 ○ 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 ○ 国語 ○ 社会 ○ 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 ○ 有 無